

新潟大学の魅力と現在を発信

新潟大学季刊広報誌

花



NIIGATA UNIVERSITY
MAGAZINE

— R I K K A —

2013.AUTUMN [No.6]



新潟大学

授業紹介-教育の現場-

学生の課外活動&サークル紹介

Enjoy! 学生ライフ

シリーズ・対談

注目される研究報告

Campus Information



特集

自律した学生を育てる

新潟大学 of 教育理念

新潟大学の教育改革の歩み／グローバル人材の育成



12 Campus Information

六花

題 字
野中浩俊(のなか ひろとし)氏
新潟大学名誉教授(教育人間科学部)。専門は、書道、富岡鉄斎研究。
現在は、岐阜女子大学 教授

自律した学生を育てる

新潟大学 の教育 理念

新潟大学では、「自律と創生」を全学の理念として掲げています。その背景にある思いと教育のスタンスを、濱口副学長に語って

そ
もそも大学の役割は何か
と言うと、一人ひとりが自

律し、ちゃんと自分で物事を考えられるような人材を育てる使命があると思うんですね。昔は大学を出れば自然と道も決まりましたけど、今の世の中はそうじゃない。これだけ多様化した社会において、学生自身が「自分はどういう形で社会に参画していくのか」を決めなきゃいけない時代なんです。ですから我々は、そんな位置取りができる——自分の目標を自分で決め、そのために何を学んだらいいかを考えられる人材の育成を目指し、そのための環境構築と改革を順次行ってきたわけです。時代の流れの中で大学卒業者は増え、今は同世代の5割を超えています。そういう中で、当然「専門（専門課程）」の意味が変わってきて、専門という概念が昔の

ままだでは通用しなくなっている……それが平成3年の「大学設置基準の大綱化」※につながっていると思います。専門だ、教養だといわず、今の時代に即した新たな概念の4年間の教育体制を整備しよう。そう認識し、教養課程や専門課程で何を教えるかを考え直したり、さまざまな教育改革を行ってきたんですよ。

そのひとつが「主専攻プログラム」。これは、自分の目標を実現するためにどのような学習が必要かを目標化し、具体的に学生に示す教育プログラムで、新潟大学では平成18年より提供し始めました。やっぱり、何だかんだ言いつつ、学生たちにただ「自分で考えろ」と言うだけでは難しいわけですよ。さらに、そのプログラムの教育目標に対してどれくらい達成したかを可視化し、それをベースに成果をアドバ

計画を立てる——そういう支援システム「NBAS（エヌバス）」を作り、その稼働にも取り組んでいます。いずれにせよ、やはり学生あつての大学ですからね。メインは、学生に「自分は何ができるのか」ということを考えてもらい、それが自分の思い込みだけじゃなく教員とも話しながら進む——その中で「よし、ここまでやれたから、次はここへ行こうか」というのを繰り返す習慣をつけると。それって結局、社会に出ても同じことですよね。言わば、それさえできるようになれば大学の4年間はOKなのかもしれない。だから、やはり大学教育の一番重要な目的というのは、学生たちが自律的に生きていくためにどういう教育をするかであろうなと。グローバルな人材育成の必要性も叫ばれる中、どういったスタンスをとるのかも含め、新潟大学は学生への教育というものを真剣に考え、一步一步進んでいるつもりです。

地方大学ならではの個性。
その良さを、歳を重ねるに
つれ、強く感じますね

あと、個人的に感じるのは、首都圏と地方の社会の感覚は違うってこと。首都圏の人間って、僕もそうですけど、基本的には流れ者なんですよ。でも新潟の人って、そういう意味ではちゃんと地に足を付けているんです。で、新潟の社会はそんな人たちが多数を占める中で形成されている良さがあるし、そういう社会を実際に見たり経験させられるっていうのは、地方大学ならではの個性ですよ。僕はずっと東京で育ち、縁あって新潟に来てもう30数年になりますけど、歳を重ねるにつれ、その良さを強く感じますね。

※「大学設置基準の大綱化」…平成3年に、教養課程と専門課程の区分をはじめ、卒業するために履修が必要な科目の内訳の規定が撤廃されるなど、大学が教育研究の多様な発展を図るために、大幅な規制緩和が行われた



Hamaguchi Medafix

大阪府で生まれ、東京大学理学部を卒業。同大学の大学院を経て、1979年10月に新潟大学教養部に移り、その後、理学部・自然環境科学科教授として活躍。専門の研究分野は「メダカの動物学、特に性決定分化機構」。

↑メダカをモチーフにした濱口副学長のマスコットキャラクター。研究室の学生が制作



新潟大学の教育改革の歩み

時が経つにつれ社会が変容し、学生のニーズや姿勢、価値観なども変化していきます。国(文部科学省)もその時々で、大学に対して中央教育審議会の答申などで学びやすい環境の構築を要請してきました。学位の質保証は、良質な学士課程構築により生み出されるもの。新潟大学では、国と歩みを合わせ、時には先行し、さまざまな教育改革に取り組んでいます。その近年の歩みをまとめてみましたので、ご覧ください。

平成22年度より開発 新潟大学学士力アセスメントシステム(NBAS)

NBASは、本学の理念である「自律と創生」に立脚したシステムであり、主専攻プログラム(学生が各学部を卒業した時にもつべき資質・能力を到達目標として明示したプログラム)での視点から振り返ることを支援するもの。NBASの特徴は、「セメスターアセスメント」にあり、学生は「可視化された学習成果」及び「学習過程の記録」をエビデンス

とした「アセスメントシート」の作成プロセスで自身の学習を意味づけ、教員のアドバイスを受けながら次の学習をデザインする。入学から卒業に至る学期ごとの「アセスメントシート」を積み重ねることで学習が深まり、最終的には新潟大学を卒業するに相応しい資質・能力を身に付けることが期待される。



※4

NBASを導入して
農学部から

NBASは、平成22年にプログラムの開発を始め、今年度より教育学部・理学部・農学部の一部で本格的に導入開始。担当の農学部・村上准教授に、全学に先駆けて取り組み始めた手応えなどを聞いてみた。「農学部の生産環境科学科に専修コースが二つあり、その両方でNBASに取り組んでいます。本学に始まったばかりで、評価自体はこれからなんだろうけど、滑り出しとしては良い感触を持っていますよ」と村上准教授。「もともと生産環境科学科ではJABEEと呼ばれる技術者教育プログラムに取り組んでいたもので、そういった、より効果のある教育を学生に提供する意識も高かったし、NBASも無理なく取り組めるだろうなど。実際、学生側も、自分の学習成果を振り返るという行為によって、学びを深められる良いきっかけになると思うんですね」と同時に、大学の教員にとってもNBASは有効に機能するものに成り得ると村上准教授は言う。「今までは、極端な話、各先生が自分の専門的分野で気ままに講義を提供



村上拓彦 准教授

新潟大学 農学部 生産環境科学科 准教授。九州大学で博士(農学)を取得。2006年11月より新潟大学に。現在、「NBAS」を試行中の森林環境学コースを担当している。

していれば自ずと学生は育つ、という考え方だったと思うんです。でも、今はもうそんな時代ではなくて。学士力というものを学生に付けさせるってときに教員集団にもつながりなければいけない。自分たちの授業が二個一個という風に連携し、それが学生たちにどんな力を付けることになるのかを改めて考える必要があるわけです。だから、NBASとは、教員側にも、4年間かけてどういう学生を育てるつもりですか?という重要な部分を考えるきっかけになるだろうなど。その意味では、主専攻プログラム等も含め、これらのシステムに僕らが、魂を込める「ってことが必要とされてきたんじゃないかと思えますね」。

※1

平成5年度 教養課程と専門課程の廃止

平成3年6月の大学設置基準の大綱化を受け、本学では直ちに「大学教育改善検討委員会」を設置し、検討を開始した。平成4年1月に本学における改善方針をまとめ、より幅広い知識や学問の基礎を学ぶ教養課程と専門的な素養・能力の形成を系統的行う専門課程を解消・再構築し、新しいカリキュラム

の編成に取り組んだ。同年7月から各学部のカリキュラム編成を調整するため「全学教養教育委員会」を設置し、具体的な検討・調整は「系統別専門委員会」で検討が続けられた。その結果、平成5年4月からは、各学部において個性豊かな新カリキュラムがスタートすることになった。

※2

平成16~17年度 全学科目化、 分野・水準表示法の導入

総合大学の利点を生かし、自分の所属する学部以外の授業科目を自由に選択し履修することが出来る「全学科目」という統一的な区分にまとめたことで、総数5,000科目以上の授業科目から選択履修が可能となった。しかし、学生自らが学びたい授業科目を見つけることは大変なため、「分野・水準表示法」を平成17年に導入した。これは授業科目に「分野と水準」を示すコードを付けることで、授業科目の分野や難易度を明確にし、学生が簡単に希望する授業科目を見つけ出せるようにした。

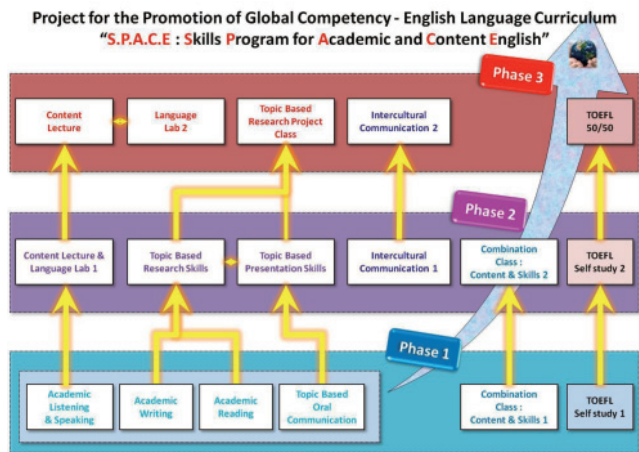
※3

平成17~18年度 主専攻・副専攻制度の導入

「学位」の質を保証し、学生が確かな学習成果を得るために主専攻プログラムを導入。主専攻プログラムは、学士課程における人材育成の目的と、到達すべき内容を明確に示す「目標達成型の教育プログラム」である。また、意欲ある学生が、複数の分野で体系的に学ぶことのできる「副専攻制度」を全国の大学に先駆けて導入した。「主専攻+副専攻」により、例えば「環境に詳しいエンジニア」や、「科学に詳しいジャーナリスト」など、各学生の個性に合わせた「なりたい自分」の実現をサポートすることができる。この制度により学生の将来の可能性は大きく広がったといえる。

S.P.A.C.E

Skills Program for Academic and Content English



グローバル人材を育成するための 新たな実践英語教育プログラム

平成25年度から、グローバル人材を育成するための新しい英語教育プログラム(S.P.A.C.E)がスタートしました。初年度は、法学部、医学部、工学部の学生を対象としますが、将来的には全学部を対象とする予定です。プログラムは、第2セメスターから第4セメスターにわたる階層的なものになっており、このプログラムを修めることにより、それぞれの専門領域で、グローバルに活躍する人材として社会に貢献していく素地を築くことができます。

◀S.P.A.C.Eのイメージ図。Phase1では、英語での講義と日本語での解説を繰り返すユニークな授業もあり、学生の理解度の向上にむけた工夫をしています。

FL-SALC

Foreign Language Self-Access Learning Center

中央図書館にて今年度から始まった 学生に対する外国語自律学習支援

平成25年4月、中央図書館2階ラーニング・コモンズに、外国語学習支援スペースFL-SALC(エフエル・サルク)がオープンしました。ここでは、学生のニーズや語学レベルに合わせた学習支援を行っています。

平成25年度に実施した主な取り組み

1 英語アドバイザーによる 個別カウンセリング

英語学習に対するモチベーションがあがらない、英語が苦手、英語のレベルを上げたい、効率的に英語を勉強するにはどうしたらいいかといった悩みを相談できます。1人あたり約30分の個別相談です(予約制)。

2 外国語チャット

留学生との交流を楽しみながら会話に慣れる。英語、フランス語、ドイツ語チャットを実施中。平成25年度第1学期は、英語749人、フランス語70人、ドイツ語55人が参加しました。予約不要、途中・飛び入り参加もOKです。

3 自由参加型グループ学習(英語)

☑TOEFLiBT リスニング

主に、留学のためにTOEFLiBTの受験を考えている人を対象としたグループ学習。会話や講義を聞いて理解する練習をします。

☑日常生活の英単語たち

身の回りのものや日常生活の動作、桁数の多い数字などを英語で表現します。毎回異なるテーマに関連する単語を、イラストを見ながら素早く言えるような練習をします。

☑英文法をもう一度

新しく導入されたCALL教材「Net Academy2 英文法コース」を教材に、英文法中心の学習を行います。中学・高校で習った英文法をもう一度理解したい人にお勧めです。

☑5文型を使わないで 文の組み立て方を考える

中学・高校で習った5文型は、ある意味でとても便利です。ですが、5文型では捉えきれないこともたくさんあります。そこで、動詞などの意味を考えて、その意味から文の組み立て方を導く方法を探ります。

☑アカデミック・ライティング ・センター

英語の文章や論文を書くにあたって不安があれば、チェックをして、適切なアドバイスをを行います。時間に余裕があれば、英語論文の要旨をチェックしてほしい院生や、TOEFL等のライティングに関する相談をしたい学生も歓迎します。

グローバル人材の育成

Project for the Promotion of Global Competency

グローバル化が加速するなか、新潟大学では、世界と地域を結ぶことのできるグローバル人材になる素養を身に付けさせる教育を行っています。その中核を担う桑原国際センター長にインタビューしてきました。

桑原 聡 新潟大学国際センター長

新潟大学文学部副学部長(研究担当)。九州大学で修士(文学)を取得し、1984年に新潟大学に着任。2008年より現職に就き、2013年10月からは新潟大学国際センター長を兼任。

違った国の文化を
学ぶことが、心の
豊かさにつながる

——今日は、世のグローバル化に伴う新潟大学ならではの教育スタンスをお聞かせしたいと思います。

桑原 分かりました。まず、最近ではグローバルという言葉がよく使われますが、前はインターナショナルと言っていましたよね？

——確かに。その違いは？

桑原 語の造りから言うと、internationalは「inter」の間に「national」という二国間、もしくは、ある国が自分を中心に他国を見て言う際にinternationalを使うんです。それに対しglobalは——90年代以降、インターネットの普及と共に急速に広がった言葉ですが——語源は「globe」地球、球体であり、ある意味(この国という)中心がない。実際、今、ネットには世界中の情報が飛び交っていて、どこに中心があるかも分からない、もはや世界全体を見ないことには話が進まないような、そういう現状を表現するにはglobalという言葉がよく合うんですね。

——なるほど。そうした状況下で、新潟大学の学生も

世界に目を向けている印象はありますか？

桑原 ええ、やはり最近海外に興味を持つ学生が多いです。なおかつ、新潟大学は英語以外の語学にも力を入れているので——大学で初めて中国語や韓国語、ドイツ語などに触れ、それが良いモチベーションになって留学しようという学生が増えているようです。

——そんななか、新潟大学らしいグローバル教育とはどんなものでしょうか？

桑原 これは個人的な思いですが、グローバル化＝英語の徹底的な学習ってことではないかと。例えば、我々日本人が、英語を母国語にする日が来るかと言ったら、多分ない。それって我々のアイデンティティ、歴史と文化を否定することであり、むしろそれを活かす道を進むべきだし——同じように、どの国にもある個々の文化を尊重し、その多様性に寛容であることがグローバル化した今の時代に求められていると思うんです。違った国の文化を学ぶことが我々の心の豊かさにつながっていくだろうし、また、互いの文化の違いに対するセンシビリティ(感受性)や、その中でより仕事が円滑に進められる国際協同能力なども、今後、学生たちに必要

とされる能力であろうと。その一例として、文学部では、留学生と日本人学生がひとつのチームを作り、「新潟再発見」などいろんな科目を立てて、国際協力の第一歩を養うような授業をやっていますし、それは学生の満足度も非常に高い授業なんですよ。

——では、今後目指すべきグローバル教育について、今、考えられていることは？

桑原 新潟大学の学生の就職先を見ると、地元に戻る志向が非常に強い。となると、世界を知った学生が、自分の生まれた地域に戻って、言わば世界とその地域を結ぶ存在になる——それって素晴らしいことですよ。なので、新潟大学でグローバル化を教育していくうえで、単に世界で戦える存在という点に力点を置くのではなく、故郷を活性化するために働きたい人がちゃんとグローバル教育を受け、そこで学んだものをしっかり地域に還元していく、そんな教育をもっとやればいいなと思っています。

地域に根差す大学としてのグローバル教育——話を聞いて、これぞ夢のある、新潟大学ならではの教育の在り方のひとつだと感じたインタビューであった。

充実した留学支援

留学は、国際体験を通じた国際理解・知識の拡大、語学力の向上など学生の能力や可能性を広げ、留学を通じ国境を超えた幅広い人的ネットワークの形成につながります。本学でも多くの学生が様々な国・地域へ留学しています。

留学実績(平成24年度)

留学先	人数	留学先	人数
韓国	98	スリランカ	10
中国	68	マレーシア	8
カナダ	65	トルコ	6
台湾	49	インドネシア	4
アメリカ	47	スイス	4
タイ	36	フィリピン	3
フランス	20	ロシア	3
シンガポール	20	メキシコ	2
ドイツ	19	フィンランド	1
オーストラリア	17	アイルランド	1
イギリス	13	ポルトガル	1

※1週間程度の短期海外研修を含む

[計495人]

奨学金

- 1 日本学生支援機構留学生交流支援制度(短期派遣) 協定校へ留学する学生が対象。月額6万円～8万円を支給
- 2 平成25年度新潟大学国際交流委員会事業 協定校へ留学する学生が対象。月額6万円を支給
- 3 学生海外実習等プログラム支援事業 研究に資するための海外での実習、調査、研修等を支援。単独で申請する場合は、1人あたり7万円、グループでの申請の場合は、1グループにつき14万円を給付

学生にとっては、部活に代表される課外活動も大切な青春の1ページですよ! このコーナーでは、そんな部活動を中心とした新大生の活躍をお届けします!!

CIRCLE PICK UP!

プレイを通じて人間力も鍛える ゴルフ部



ボールを芯で捉えたときの爽快感は最高!

↑今年春に行われた春季関東大学対抗チャレンジカップでは優勝を果たした

技術の向上はもちろん ゴルフはマナーも重要

「自分が置かれている状況を見極める力や、ミスを少なくすることを意識して、部員一同、技術の向上に精進しています。また、ゴルフはマナーのスポーツとも言われます。練習時にコースをきれいに使うことはもちろんですが、部員同士の挨拶も徹底しています。ゴルフ場では年長者とコミュニケーションをとる機会も多いので、そこで身につけた人間力は、社会に出てからもきっと役に立つと思います」



部長 福田裕紀さん(農学部3年)

CIRCLE PICK UP!

昔の人々の生活や精神世界を学ぶ 考古学研究会



部員が制作した土器歴史に思いを馳せ丁寧に作りました

↑実験考古学で作成した土器や弓矢を手に記念撮影。楽しい雰囲気も魅力

年2回の発表会に向けて 各自が好きなテーマを研究

「普段は春の『黎明祭』、秋の『新大祭』のふたつの発表会に向けて、それぞれが好きなテーマを作って学習しています。また、そういった個々の活動のほか、年に1回、遺跡見学の旅を開催したり、みんなで土器や弓矢を作ったり、アットホームな雰囲気の中で活動しています。考古学の魅力は、昔の人々の生活や精神世界を感じることができるところ。現代に共通するものを感じた時にも感動がありますね」



部長 天間貴志さん(人文学部3年)

CAMPUS TOPICS!

第62回関東甲信越大学体育大会 5種目で本学が優勝!

本大会は毎年、関東甲信越地区の国立大学13校が参加し行われる総合体育大会です。今回は、8月16日(金)~8月31日(土)まで開催され、約3,500名の選手が参加。本学からは、全17競技に約350名の選手が出場し、卓球(男子)の13年連続優勝、卓球(女子)の16年連続優勝、ラグビーの14年連続優勝、水泳(男子)の4年連続優勝、バレーボール(男子)の11年ぶりの優勝を筆頭に、各競技において優秀な成績を収めました。なお、優勝、準優勝、第3位の獲得数は、参加13校中で最も多い16種目となりました。



うちのDEアート2013が 好評のうちに終了しました

「うちのDEアート」は、新潟市西区内野町を舞台とした、「アートクロッシングにいがた」の一環として開催するアートプロジェクト。町に住む人々や町を訪れた人々へ内野町の景観や、歴史を取り入れたアート作品に触れる場を提供するとともに、大学と町が連携して町の魅力を発信していくことを目的としています。今回も、招聘アーティストや本学の学生、地域の方々の作品を町中に展示することを始め、訪れた方々が参加できるワークショップイベントも多数行いました。



意欲ある学生が伸び伸びと勉学に勤しむ

授業紹介 — 教育の現場 —

第6回 医学部

竹林浩秀 教授

Profile
専門は神経解剖学。脳ができる仕組みや、働く仕組みを研究する。



発生学

複雑な体が形成されるメカニズムについて理解 病気の本質を理解する基礎にもなる

発生学は、一つの受精卵から複雑な構造をもつ個体ができるまでの過程を学ぶ学問。医学部では、ヒトの発生について、正常発生のみならず先天性の奇形ができるメカニズムについても講義が行われる。「学生には、複雑な体が形成される巧みなメカニズムについて理解を深めてもらいたい。発生学は産婦人科や小児科を専門に考えている学生はもちろん、すべての学生にとって基礎となる知識。なぜなら、発生過程で使われる遺伝子プログラムの異常は、癌をはじめ多くの病気の発症に関与しており、病気の本質を理解する基礎になるからです」。また、発生学は科学的な内容に留まらず、社会につながる内容も多く含むと言う。「例えば、遺伝病をもつ患者や家族の遺伝カウンセリング、出生前診断の技術進歩と人工妊娠中絶、不妊症の増加と生殖補助医療などは、社会の問題とも密接に関連しています。学生には普段から自分の頭で考える習慣をつけて、高い倫理観を備えた医師になってほしい。研究の意義と重要性を理解し、自ら医学の発展に寄与しようとする気概を持った学生が多く出て来てほしいと考えています」。

専門的な知識や技術の修得と、均整の取れた知識の獲得は教育の重要な役割。約5000科目の中から特色ある授業を紹介。



STUDENTS VOICE

「高校生物の内容や、写真・動画を使った、とても分かりやすい授業です。iPS細胞など、最新の研究成果も学ぶことができます」(青木)「将来、私たちが医師として働く間に、再生医療の現場導入が予想されます。発生学はその基礎になるので、しっかり身につけたいと思っています」(薩摩)



右 青木壮則さん(医学部2年)
左 薩摩有葉さん(医学部2年)

瀧澤 淳 准教授

Profile
専門は血液内科学。リンパ系腫瘍の発症機序の解明と治療法の開発について研究する。



血液系

臨床情報から診断に至るプロセスと 治療方針を決定する能力を身につける

血液系では、血液学総論、貧血、白血病、リンパ系、血小板・凝固、輸血学、小児血液疾患、血液病理学、血液薬理学の9つのユニットを設けて、学習を行う。「広範な疾患を扱う分野なので、血液内科だけでなく小児科、病理、薬理の先生方にも協力いただき講義を行っています。学生は、正常造血細胞の発生、分化、機能について、また、造血細胞に関わる各種疾患について学習し、血液疾患の治療のために必要な薬剤の知識を深めていきます。また、骨髄移植など造血幹細胞移植や近年開発された分子標的療法など最新の治療についても学ぶことができます」。学生はグループに分かれて学習し、具体的な症例を題材とした問題を考え、その結果を発表。病歴、身体所見、検査所見から、どのように診断に結びつけていくかという思考プロセスを身につけることを目的としている。「血液疾患の診断過程は臨床情報、病理形態、染色体・遺伝子検査など様々な情報を駆使して行うため広範な知識が必要で、病態に関わる分子異常が解明され、患者さんの利益に直結します。医学の進歩を実感できる分野なので、学生には積極的に学習してほしいと思います」。



STUDENTS VOICE

「血液系は医学部生が最初に学ぶ臨床系の講義。座学だけではなく、症例を診断していく過程を実践的に学べる場です」(大関)「グループ学習ではさまざまな意見が飛び交い、診断への多角的な見方が養われます。医師として基礎になる知識をしっかりと身につけることができます」(木村)



右 木村克亮さん(医学部3年)
左 大関 壘さん(医学部3年)

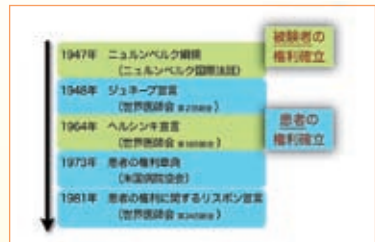
研究
課題

医療・科学技術がもたらす倫理的問題を 人間の「物語」で読み解く

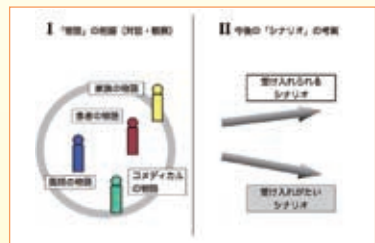
医歯学系(医学部保健学科)
宮坂道夫 教授



宮坂道夫 教授
医学博士。専門は生命倫理、医療倫理など。



↑生命倫理の背景には医学の負の遺産がある



↑臨床現場では異なる「物語」が併存している



↑高齢者の「人生の物語」を学生が紙芝居にした

個々のライフストーリーを把握することができる。これぞナラティブ・アプローチという好例です。治療手段の選択の際には、家族への配慮や当事者の人生のあり方を無視することはできない。「統計的データ」のみに基づいた医療は必ずしも万能ではありません。医療は常に個別との対話の中で考えるという原点に立ち返る意識を喚起する必要があります」。

新潟大学の特色ある 研究トピックを紹介

注目される研究報告

医療は常に個別との対話で 考えるという原点意識を喚起

生命倫理学とは、医学や生命科学の進歩によってもたらされた倫理的問題を考える学問。例えば生殖医療や再生医療、終末期医療、それらにはどんな技術があり、専門家や患者、国民はどのように理解しているのかという実態を調査し把握。それらを踏まえ、規範を提言したり選択肢を示す研究を行う。「臨床の現場では医師が技術的に的確な説明をしても、患者側には心情的な抵抗感や不安が常に存在します。人間の尊厳やアイデンティティを無視しては正しい治療はできません」。その研究における方法論とし

同じ研究者であれば、まず気持ちのうえで負けたらダメだと。――学生時代、池田先生にはどんな印象を抱かれていたんでしょうか？

高橋 とにかく熱い先生だなと。研究に対して非常に情熱を持って向かわれる方です。で、私たちが勉強不足だったので、私たちが厳しく叱られて……。ただ私の場合、一緒にゼミに2学年上の先輩がいて、カミナ



髙橋 祐一さん

昭和53年3月 新潟大学理学部卒。
新潟県立新潟高等学校 校長。

池田 結局ね、たとえ東大だろうが京大だろうが、同じ研

りを落としたやすすかったのか、私が受けるべきカミナリもその先輩が全部受けていた記憶があつて。避雷針とでも言いいますか(笑)。

――(笑)今、目の前にいらっしやる池田名誉教授からは、そんな怖いイメージは受けませんが？。

山田 いやあ、やはり物理学に対して情熱的であるが故の厳しさを持っていらっしやる先生ですよ。

髙橋 ただ、その厳しさが良かったというか。それが当たり前だと思つていたし、それで反省してまた翌日頑張る、みたいなところはありましたから。で、僕にとって池田先生は今の(教職の)道に進むきっかけとなった恩師でもあるんです



山田泰一さん

昭和56年3月 新潟大学理学部卒。
関東学院大学 理工学部 教授。

ね。当時、「君は先生になりなさい」と言われ――。

池田 髙橋さんはね、人の面倒見がよくて、教えるのが好きだったんですよ。それで僕、ちよつと考えて、「君は高校の先生をやった方がいんじゃないかな」と言った覚えがあつて。……そうだったよね？

髙橋 そうです(笑)。ただ、そこから紆余曲折ありつつ：一度、「やっぱり教員なんてなれないです。私みたいな男が人を育てるなんてできないので……」と先生に弱音をはいたことがあつて。そしたら「何言ってる！ その完全主義がダメなんだ!!」ってドーンとカミナリを落とされて……。その場面はいまだによく憶えていますね。そこまで考えて学生に接してただけで、本当に感謝しています。

研究者であれば、そういう人たちに気持ちのうえで負けたらダメだと。まず気持ちで負けずに――あなたがた三人は皆、新潟県出身ですけど――新潟人ならではの粘り強い面をしっかりと発揮できれば誰とも戦えるんです。……昔、新潟大学の教授を務め、その後京都大学の総長になられた平澤(興)先生いわく「私は、新潟に生まれたおかげで何をやってもう人より粘れる。その点では誰にも負けないよ」と。それで脳の中の神経のひとつづつを丁寧に研究されて世界的な権威になられたわけですが、そういうところはやつぱり、昔も今もすごく大事だと思ふんです。

髙橋 その粘り強さってことも含め、やはり、くじけそうになつたときでも、そういう強い言葉と決めてあきらめないって精神も学んだ大学時代の



池田清美 名誉教授

昭和45年～昭和52年 新潟大学 理学部 助教授
昭和52年～平成11年 新潟大学 理学部 教授



対談・撮影場所 シーボニア
新潟市西区五十嵐東1-1-12
【西大通り(旧116)沿い】

経験が生きているかなど。山田 おつしやる通りですよ。池田先生とは、今でもいろんな学会や研究会でお会いするんですが、もう79歳でいらつしやるのに、会うたびにどどんお若くなられている感じで――足取りも、お話しされる内容もしっかりしていて、なおかつ精力的に研究を続けておられると。そういう物理に対する情熱は自分にとっての模範ですし、その前向きなパワー、バイタリティというものをいつまでも見つめていきたいですね。



高橋美保さん

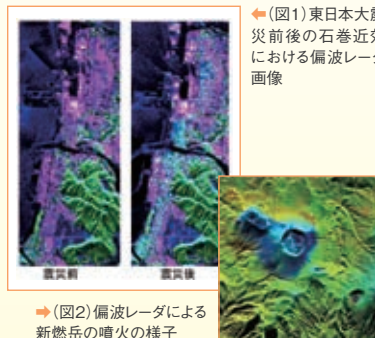
平成2年3月 新潟大学理学部卒。
新潟大学 経済学部 助教。

研究
課題

人工衛星・航空機に搭載した 偏波レーダによる地球環境観測

自然科学系(工学部) 山口芳雄 教授

地上から反射してくる電波の偏波情報を利用 昼夜・天候に関わらずフルカラー画像を作成



震災前後の石巻の偏波レーダ画像。震災前と比べて、震災後では建物の存在を示す赤色の領域が減少し、津波によって流された比較的平坦な表面が青く現れている。図2は新燃岳の噴火の様子。火山灰に覆われた箇所が青く表示されている。「人が近づけない危険な所でも、噴煙を透過する電波の性質を使えば、いつでもどこでも観測が可能です。地上の変化を立体的にカラー画像の変化として捉えることができるのが最大の特徴です」。また、これらの技術は長期的な地球環境の観測にも効果的だという。「急激な都市化による地盤沈下や森林伐採の状況を把握すれば、災害予測や異常気象の原因究明にもつながります」。この偏波レーダによる地球観測の研究は、JAXA(日本)、NiCT(日本)、NASA



山口芳雄 教授

工学博士。専門は計測工学。IEEE Fellow。附属図書館長、自然科学研究科副研究科長、災害・復興科学研究所副所長。



↑後進の育成にも尽力。研究室にて学生と

(米国)、DLR(ドイツ)、CSA-ASC(カナダ)などと連携した国際共同研究である。今年はIEEEの国際シンポジウム論文賞を受賞。これは世界中の約1,500件もの発表論文の中から1件に贈られる大変名誉のあるもの。「地球環境など人類全体に関わる問題に取り組む上では大本になるルール作りが必要。そのために正確なデータを取る役割を担っていきたいと思っています」。

新潟大学では、伝統的な学問分野を継承するとともに、専門分野を超えて連携し合う研究や、先端的な研究など、真理探究や社会の発展に貢献する研究を行っています。

Campus Information

地域に密着しながらさまざまな活動続ける新潟大学。皆さんにお伝えしたいニュースはたくさんあります!

人文・法・経済学部同窓会創立60周年記念式典の開催

人文・法・経済学部同窓会の創立60周年記念式典・祝賀会が、平成25年7月6日(土)新潟東映ホテルにおいて開催され、250人を超える同窓生や関係者が出席しました。式典に先駆けて、「いのちの落語家」樋口 強さん(卒業生)による創作落語が披露された後、「今に生きる良寛」をテーマに、柳本雄司氏(新潟良寛会会長、卒業生)をコーディネーターとするパネルディスカッションが行われました。パネラーに長谷川義明氏(全国良寛会会長、前新潟市長)、高橋郁丸氏(漫画家)を迎え、熱のこもった討論となりました。式典では、磯部人文・法・経済学部同窓会長の挨拶に続き、下條学長、多和田全学同窓会長、人文、法、経済の各学部長の祝辞の後、関係者への感謝状の贈呈が行われました。祝賀会は、冒頭、卒業生による「祝いの能の舞」が華を添え、志賀山形県支部長の乾杯で幕が開きました。各テーブルでは、在学時の思い出話や近況報告など思い思いに旧交を温めていました。



今に生きる良寛パネルディスカッション



祝賀会の様子



磯部 人文・法・経済学部同窓会長の挨拶



樋口強さんと新大落語研究部の学生たち



新潟大学生協「学食PASS」—新大生の食生活サポートシステム—

「学食PASS」とは、学食をキャッシュレスで利用できる電子マネーです。入金されたお金は、生協食堂以外で利用できないため、無理な節約をすることなく毎日の食事が可能になります。「マイページ」に登録することで、学食PASSを利用した日や金額、メニューや栄養情報などが、Webサイト上から閲覧できるため、健康管理のセルフチェックに役立ちます。この情報は学生本人だけが利用できるのではなく、登録をすれば家族の方も閲覧することが可能です。詳しくは、新潟大学生協同組合のホームページをご覧ください。<http://www.univcoop.jp/nuc/>

新潟県内企業・新潟大学懇談会の開催

平成25年9月12日(木)に、キャリアセンター主催「県内企業・新潟大学懇談会」を開催しました。この懇談会は、卒業生の就職実績等がある約100社の県内企業人事採用担当者等を招き、本学の取組紹介の他、学生・教職員との懇談の場を新たに設けました。第1部は、麒麟山酒造株式会社 齋藤吉平代表取締役会長の講演が行われ、第2部では、各部局の取り組みを紹介するブースを設け、企業担当者と学生・教職員がフリースタイルでの懇談を行いました。企業からは、「学生が取組む研究内容を学生自身から直接聞くことができてよかった。」といった感想が寄せられました。



新潟大学基金のお知らせ ぜひご協力ください

学生の修学支援、国際交流活動等に活用しています。 ※税法上の優遇が受けられます

●基金ホームページ

<http://www.niigata-u.ac.jp/kikin/index.html>

新潟大学基金事務局

電話:025-262-5651(受付時間 平日9:00~17:00)

FAX:025-262-6679 E-mail:kikinjimu@adm.niigata-u.ac.jp



「新潟大学カード」入会受付中!

VISA付きの国際カード「新潟大学カード」。卒業生と母校の絆を、いつもポケットに!

入会受付中

●新潟大学カードに関するお問い合わせ先

新潟大学全学同窓会事務局

電話:025-262-7891

(受付時間 平日10:00~15:00)

E-mail:n-doso@adm.niigata-u.ac.jp



新潟大学
季刊広報誌

六花

RIKKA
2013.Autumn

No.6

■発行/平成25年11月

■編集/新潟大学広報センター

(新潟市西区五十嵐2の町8050番地)

■電話/025-262-7500 ■FAX/025-262-6539

Home Page

<http://www.niigata-u.ac.jp/>

E-mail

rikka@adm.niigata-u.ac.jp

編集後記

風が涼しくなり、秋の訪れを感じるキャンパスでは、後期の授業も開始され、多くの学生で賑わっています。今号では「教育」に関する特集を掲載しましたが、キャンパスで学ぶ学生には、本学の教育プログラムを積極的に活用して、今後のキャリア形成に活かしてもらいたいと感じました。学生それぞれの“夢”に向かって、充実した学生生活が送れるよう願っています。(Y.K)

リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。